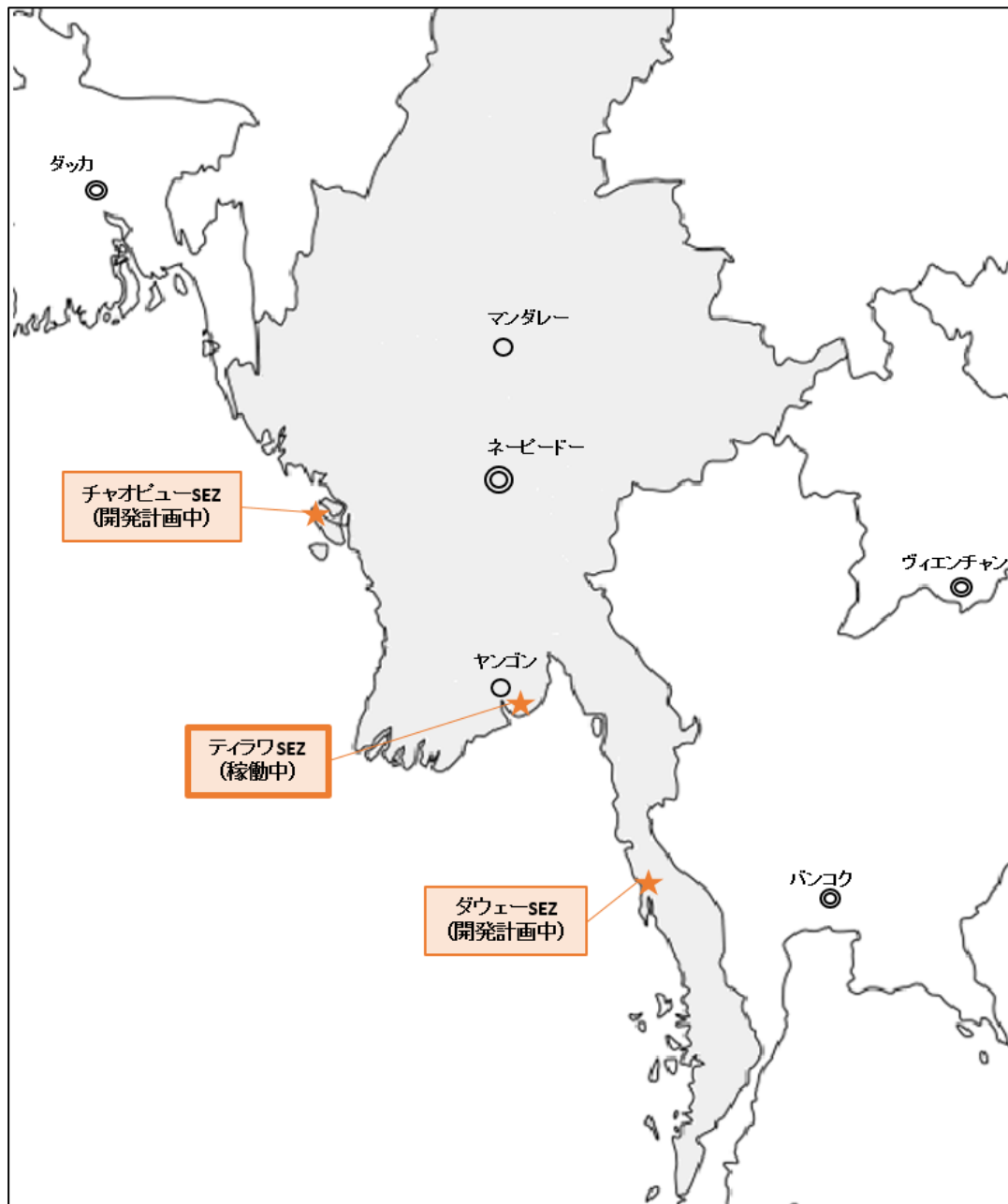


第23章 経済特区 (SEZ) の概況

1. 概要

ミャンマーには稼働中の経済特区として後述する「ティラワ経済特区」、2018年3月現在開発計画中のものとして「ダウエー経済特区」及び「チャオピュー経済特区」がある。

図表 23-1 経済特区の位置



(出所) 各種資料より作成

ダウエー経済特区は、大メコン経済圏における南部経済回廊の西側（インド洋側）に位置するという地理的特性を有している。予定されている開発総面積は約 20,000ha であり、後述のティラワ経済特区の総開発予定面積と比べるとその約 10 倍にも及ぶ広大な計画となっている。工業団地のほか、深海港の開発や、タイ国境までの道路・鉄道の整備、電力・送電線網の整備等の大規模な複合開発が計画されており、開発が実現した場合、大メコン経済圏を背景としたインド洋側の重要なゲートウェイになる可能性がある。2008 年にタイ政府とミャンマー政府との間で開発に関する基本合意がなされた後、タイの民間会社が開発を請け負うことになったが、巨大プロジェクトであるが故に民間会社単独での開発が困難となり、2012 年にはタイ、ミャンマー両国間の国家プロジェクトとする合意がなされた。また、2015 年には日本政府の参画を前提とした政府レベルの意図表明覚書も交わされており、今後は日本からの支援を前提とした開発の再開が見込まれる。

チャオピュー経済特区は、地理的にはインドと中国の中継地点に位置している。チャオピューから中国内陸部（雲南省）まで石油・ガスパイプラインが敷かれており、中国にとってはマラッカ海峡を経由せずインド洋にアクセスできるという地政学的な重要性を持つ地域である。開発は中国の国有企業を核とするコンソーシアム（企業連合）が実施することになっている。

2. ティラワ経済特区

(1) 開発の状況

ティラワ経済特区はヤンゴン中心部から約 20 km の場所に位置しており、近くをヤンゴン川が流れるという地理的特徴を持つ。

予定されている総開発面積は 2,400ha で、先行開発地区のゾーン A（約 400ha）はすでに開発が完了しており、ゾーン B の開発（フェーズ 1 として約 100ha の開発）が現在進められているところである。

上記の開発会社である MJ ティラワ・デベロップメントには、ミャンマーの官民が 51%、日本の官民が 49% 出資している他、周辺インフラ（発電、送電・変電、港湾、通信、上水道、道路等）の整備や経済特区の運営についても日本政府の有償・無償による支援が行われており、開発や運営にあたって日本の官民が深く関与しているという特徴がある。

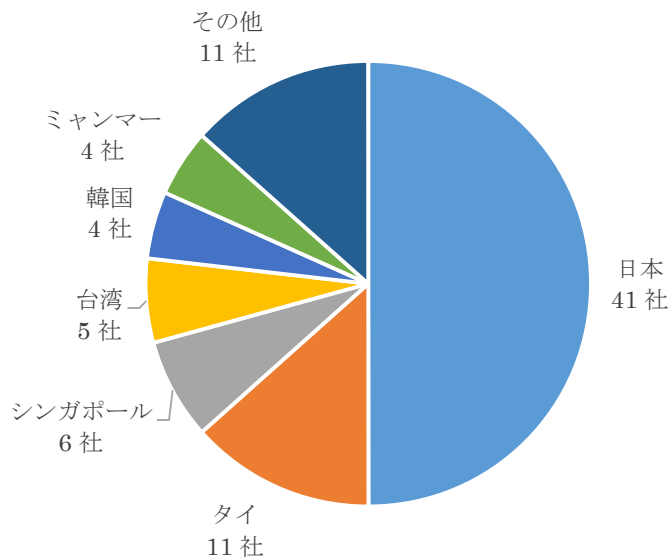


ミャンマー日本ティラワ開発公社（MJTD）が入居する建物

(2) 進出企業の状況

ティラワ経済特区では、2014 年末から投資認可手続きが開始された。ティラワ経済特区管理委員会 (Thilawa SEZ Management Committee/TSMC) が公表している投資認可リストによると、2017 年 4 月末現在で合計 82 社の投資が認可されており、そのうち半数を日系企業が占める。日本に次いで進出企業数が多いのが隣国のタイで、次いでシンガポール、台湾等が続く。ティラワ経済特区の開発や運営で日本の官民が深く関与していることもあって、日系企業の進出数が最も多い状況にあり、ミャンマーとの経済的な結びつきが強いタイやシンガポールからの進出数も日本に次いで多い状況にある。

図表 23-2 ティラワ経済特区の国別進出企業数 (2017 年)



(注) 日系企業については、第三国経由での投資の場合でも上表では日本に含めている。

(出所) ティラワ経済特区管理委員会 (Thilawa SEZ Management Committee/TSMC) が公表している投資認可リストより作成

上記の進出企業のうち、約 7 割から 8 割が製造業であり、製造業の業種は、自動車、自動車部品、縫製、食品、缶、建設用資材、段ボール等多岐にわたっている。また、農業関係 (農機や肥料の製造並びに輸入販売) の企業数が多いのも特徴的で、全体の 1 割弱を占める。その他、サービス業やその他の事業 (物流業、ホテル開発・運営事業、教育訓練事業、経済特区内居住施設の開発・運営事業、廃棄物処理等) が進出している。



ティラワ SEZ のエントランス

ひとくちメモ 9： スターシティー ～ティラワ SEZ 近くに家を探すなら～

ティラワ SEZ の工場や事務所に勤務する駐在者の住まいは、ティラワ SEZ まで車で 1 時間以上かかることもあるヤンゴン市街地ではなく、「スターシティー」と呼ばれるティラワ SEZ に程近い新興高級住宅地に構えることが多い。

スターシティーは、ヤンゴン市内からおおよそ 30 分、バゴー川を渡った対岸のタンリン地区に位置する、東京ドームおおよそ 36 個分の広大な土地に開発されており、2012 年に着工、レジデンスは随時販売・入居を開始しており、最終的な完成は 2020 年を予定している。

セキュリティの厳重なゲートで仕切られた区域内には、綺麗に整えられた緑豊かな中庭や遊歩道、池があり、ヤンゴンのダウンタウンの喧騒からは程遠い落ち着いた街の様相である。レジデンスの階下には、高級スーパーやコンビニ、病院、日本食レストラン、ジムもあり、域内には広大な芝生グラウンド、18 ホール完備のゴルフ場も併設、インターナショナルスクールも建設予定である等、快適で便利な居住環境が用意されている。



ティラワSEZ近郊で建設が進むスターシティー